

パブリックコメントの結果について【野々市町都市計画マスタープラン(案)】

頂いた意見の概要及びその意見に対する考え方は以下のとおりです。

募集期間：平成21年10月23日～平成21年11月6日

意見件数：4件

番号	意見の概要	意見に対する考え方
全体構想		
1	<p>野々市町には、御経塚遺跡、経塚、末松廃寺、富樫館跡等の多くの歴史的資源が存在する。</p> <p>これらの資源を活用し、金沢市を訪れる多くの観光客を野々市町に誘致できるような観光都市を目指すべきである。</p>	<p>町の古くからの歴史を物語る歴史的資源については、都市景観形成の観点から、その保存、活用を図る中で、公園的な利用や修景的な整備による魅力的な景観形成を目指していきたい。</p> <p>当都市計画マスタープランで目指す「歩いて暮らせるまちづくり」に向けた整備を進めることにより、町内各地に分散する歴史的資源を歩行系ネットワークで結び、商業施設や公園なども取り込むことにより、回遊性の向上を目指したいと考える。</p> <p>また、町内各地で開催されるイベント等の情報を積極的に発信することにより、町の魅力のPRにも努めていきたい。</p>
2	<p>現在の野々市町は「若者の町」というイメージがあるが、将来は高齢化していくことが容易に予想される。</p> <p>高齢者が暮らしやすい環境を作るためにも、現在の車社会を脱却し、歩いて生活できるまちづくりを進め、老若男女が共生できるまちを目指すべきである。</p>	<p>コンパクトな町という特徴を活かし、当都市計画マスタープランでは「歩いて暮らせるまちづくり」を目指すため、用水沿いの遊歩道や、安全に通行できる歩行空間の整備、そして歩行者や自転車を優先したみちづくりなどを推進していきたいと考えている。またその中で、老若男女問わず、すべての人が快適に歩くことができるバリアフリー環境についても十分に配慮し、目標の実現を目指したい。</p>
3	<p>安全・安心の食生活を守るためには、町の農業を守り、育てていくことが必要不可欠である。</p> <p>都市の発展を考える中で、農業の発展についても併せて十分に検討していくべきである。</p>	<p>農地については、食料の生産基盤としてはもとより、景観や環境面など多面的機能を備えた、まちを支える重要な都市基盤のひとつとして捉えている。</p> <p>当都市計画マスタープランでの農業地区の方針としては、その優良農地を保全する一方、石川県立大学を核とした農商工の連携による新産業の創造や新たな野々市ブランド創出を支える土地利用を図り、町の魅力づくりの一つの要素として活用を目指したいと考えている。</p>

地域別構想	
4	<p>土地利用の方針における多用途共存・調和ブロックの目指す方向としては、今後も様々な用途の建物が混在することをある程度許容すると読み取れるが、居住環境の向上を図る上では単一用途でのブロック形成が望ましいのではないか。</p> <p>地域の発展・活性化のためには、ある程度の規模で操業する工場の存在は不可欠なものであり、また、職住近接の観点からいわゆる良質な混在と認識している。</p> <p>しかしながら、このブロックにおいては、単に混在を許容していくものではなく、住環境や工場操業環境の調和を図っていく方針であり、緩衝緑地等の設置など、お互いが共存できる環境づくりを目指していきたい。</p>